

(様式3)

## 5 学校アクションプラン

令和7年度 中央農業高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	学習活動	
重点課題	学習習慣の確立と学習意欲の向上	タブレットを活用した授業の取り組み
現 状	生徒たちの学力差が大きく、より生徒の実態に応じた指導が大切であると考えている。 生徒の学習状況を調査すると、予習復習等の自学自習は行っていない、学習方法がわからない、と回答した生徒が多かった。自学自習を習慣化させ、学力の向上を図る必要があると考える。	タブレットを活用している生徒は、98.7%で、うち授業への活用については60%以上の生徒が「効果を実感している」とアンケート結果で示されている。 今年度も継続して生徒が主体的に学習活動に取り組むことができるタブレットの適切な活用方法を推進する必要がある。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・躍進賞獲得（2回目が20点以上成績がアップした）・・・学年30%以上</li> <li>・優秀賞獲得（ポイント30点以上）・・・学年50%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを適切に活用できる</li> <li>・・・100%</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイント制の見直し 課題の提出状況、得点の進捗状況、自学自習の取り組み状況によりポイントを付与し、可視化する。</li> <li>・自学自習の取り組み 自学自習ノートの継続</li> <li>・中農チャレンジ、朝学習 取り組み内容の精査と国・数・英の底上げ</li> <li>・質問コーナーの継続 職員室前で生徒と教師が利用する場面が見られたため、引き続き学習力向上を目的に、机とイスを設置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎にアンケートを実施し、きちんとした取り組みができていない生徒には、研修会を行ったり、授業中に重点的に指導したりする。</li> <li>・互見授業の活用。</li> <li>・ICT支援員との連携を密にすることで、教員間でタブレットの効果的な活用法を共有する。 (毎週第2火曜日)</li> </ul>

令和7年度 中央農業高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	基礎的・基本的知識技術の習得
重点課題	「資格取得と客観的評価」
現 状	例年、各資格習得に対する目標を示しているが、指導体制や各職員、各学年の資格習得に対する意識の統一が十分とは言えなかった。このことにより、日頃の農業教育による学習効果が十分に発揮されていなかった。
達成目標	1 学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 20%以上 2 学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 30%以上 3 学年「日本農業技術検定3級合格」学年取得率 40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定の実施日、日程については保護者・生徒に連絡する。</li> <li>・検定の指導体制については、授業内で検定に触れ、対策講座を開講する。</li> <li>・検定取得は進学や就職に有利になるというメリットを理解させ、より多くの検定受験に挑戦するようにクラス担任、生徒に意識的に働きかける。</li> </ul>

重点項目	<b>自己責任を考える</b>	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民法改正による18歳成人引き下げに伴い、生徒自らが自己の行動に責任を持つことができる。(自己責任)</li> <li>・信頼される中農生として、学校生活3か条「挨拶をする、服装を正す、時間を守る」を意識できる。(時間の管理)</li> <li>・登下校時において交通事故の危険を回避することができる。(命の尊さを考える)</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概ね学校ルールを遵守できている。自分自身の行動の一つ一つの結果までを考えるまでには至っていない。</li> <li>・学校生活3か条は、過去の取り組みから、年々意識向上している。今年度もこれらを定着させるために、粘り強い指導を継続する。</li> <li>・交通安全への意識は十分とはいえないため、継続的に指導する。</li> </ul>	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己責任について考えることができる。</li> <li>・時間管理がしっかりできる</li> </ul> [達成目標] : 生徒へのアンケートにおいて達成できた→95%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車、歩行による交通安全意識の向上</li> </ul> [達成目標] : 交通ルールを守る意識 事故件数 ゼロ
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの実施</li> <li>・各学期の始業式と終業式および大型連休前に校則の遵守指導を実施</li> <li>・生徒会執行部と希望者による平日8:00~8:20に寮から本館の渡り廊下付近にて「あいさつ運動」を通年実施</li> <li>・生徒会執行部を中心に時間管理や自己責任の啓蒙活動を実施。</li> <li>・HR会長、風紀委員を中心に生徒への呼びかけを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室において意識調査の実施</li> <li>・全体への指導：各学期の始業式と終業式および大型連休前に交通安全指導を実施する</li> <li>・交通安全街頭指導の継続(中農坂～福沢地内)</li> <li>・校地内(中農坂～T字路まで)の自転車運転の禁止と安全点検の徹底</li> </ul>

重点項目	<b>寮生会活動の活性化について</b>	
重点課題	<b>寮生会が主体となって、寮生の安心と安全を保障し、且つ充実した生活を送れるような、寮運営を進めていきたい。そのための意識の涵養を目指すものである。</b>	
現 状	<p>現在、寮生会の諸活動および、寮内のルールは、主に教員が中心となって計画・運用されている。寮生の自治組織である寮生会が主体となって、行事の計画、立案及び運営していく体制を整えるとともに、自らルールを設定し、全寮生へ周知、徹底を図ることを目標とした、寮生会運営を望むところである。以上のことから、下記の通り、対策を講じていきたい。</p> <p><b>対策1</b> 『寮生会役員会について』</p> <p>週1回、役員会を設定し、諸行事と規則についての話し合いの場を設ける。話し合われた内容をまとめ、寮生への周知の仕方等について検討させる。</p> <p><b>対策2</b> 『夕べの集い・寮生集会について』</p> <p>毎日夜に夕べの集い・月1回に寮生集会を設け、役員会で諮った内容を周知させるとともに、組織的な運営の仕方について、学ぶ機会とする。</p>	
達成目標	①週1回の寮生会役員会の実施と毎日夜に夕べの集い、月1回に寮生集会を実施できる。 ②寮生が主体となって行事等を企画、立案、運営することができる。	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寮生会顧問および寮務部職員が中心となって指導し、活動を具体化させる。</li> <li>・寮生全員が協力し、寮運営が進められるよう奮起を促す。</li> </ul>	

重点項目	進路支援																			
重点課題	進路先の確保、インターンシップ体験率の向上																			
現 状	<p>本校は農業科の単独校ではあるが、実際の就職や進学は多様な分野にわたっており、卒業後ただちに就農する生徒は少ない。しかし長期的な展望において、生徒が卒業後に他の分野での知識や技術を活用し、新時代に対応した就農につなげていくことを期することから、どの分野への進路についてもそれぞれの適性或志望に応じた支援をすることに努めている。</p> <p>具体的には、進学では、国公立大学農学部への進学を志す生徒がいる一方で、経済系や情報系の専門学校等への志望者もおり、また就職の志望先においても、農業法人のみならず、製造、販売、建築、サービスと幅広い。そこで各学年において、ワークショップ形式とガイダンス形式との両方で、それぞれ進路学習の時間を設けるとともに、民間業者や企業団体等の協力を得て、進学や就職についての相談会も適宜開催し、就農に特化した相談会も年に1回開催している。</p> <p>さらに2年次においてインターンシップを実施するとともに、3年次では解禁日以降になるべく積極的に応募前企業見学に臨むよう勧めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去3年間のインターンシップ実施状況 (※数字は各年度3月調査のもの、分母は在籍数)</li> </ul> <table border="1" data-bbox="387 734 1393 1014"> <tr> <td data-bbox="387 734 603 869">第2学年までの体験者数</td> <td data-bbox="603 734 802 869">R3年度 34/41人 (82%)</td> <td data-bbox="802 734 1002 869">R4年度 24/37人 (65%)</td> <td data-bbox="1002 734 1201 869">R5年度 42/42人 (100%)</td> <td data-bbox="1201 734 1393 869">R6年度 27/28人 (96%)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 869 603 902">↓</td> <td data-bbox="603 869 802 902">↓</td> <td data-bbox="802 869 1002 902">↓</td> <td data-bbox="1002 869 1201 902">↓</td> <td data-bbox="1201 869 1393 902">↓</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 902 603 1014">第3学年までの体験者数</td> <td data-bbox="603 902 802 1014">R4年度 36/41人 (88%)</td> <td data-bbox="802 902 1002 1014">R5年度 30/36人 (83%)</td> <td data-bbox="1002 902 1201 1014">R6年度 42/42人 (100%)</td> <td data-bbox="1201 902 1393 1014">R7年度 / 人 ( %)</td> </tr> </table>					第2学年までの体験者数	R3年度 34/41人 (82%)	R4年度 24/37人 (65%)	R5年度 42/42人 (100%)	R6年度 27/28人 (96%)	↓	↓	↓	↓	↓	第3学年までの体験者数	R4年度 36/41人 (88%)	R5年度 30/36人 (83%)	R6年度 42/42人 (100%)	R7年度 / 人 ( %)
第2学年までの体験者数	R3年度 34/41人 (82%)	R4年度 24/37人 (65%)	R5年度 42/42人 (100%)	R6年度 27/28人 (96%)																
↓	↓	↓	↓	↓																
第3学年までの体験者数	R4年度 36/41人 (88%)	R5年度 30/36人 (83%)	R6年度 42/42人 (100%)	R7年度 / 人 ( %)																
達成目標	3年生の進路先決定率100%、2年生のインターンシップ体験率90%以上																			
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポート等を活用しながら、生徒の自己理解を深めさせ、同時に進路についての相談会等を各学年ともに年間に複数回開催する。</li> <li>各大学等の入試情報を全国レベルで収集するとともに、アドミッションポリシーに着目し、生徒の適性を勘案しながら農業学習や寮生活での体験を活用できるように支援する。</li> <li>インターンシップについては、農林水産公社等とも連携し、受け入れ先の増加や事業所との情報交換を促進させる。</li> </ul>																			